

重点課題① 胎児期からの健康な生活習慣の支援

目標：生涯に渡り、自ら健康管理ができる力が育まれる

めざす姿

- 親子で健康的な生活習慣を身につけ、子どもが心身ともに健やかに成長できる

現状値と10年後の目標

- 虫歯のない3歳児の割合 85.8%⇒増加
- 児童・生徒における瘦身・肥満傾向児の割合
小学生：男子やせ8.5%・女子やせ13.6%⇒維持もしくは減少
男子肥満18.0%・女子肥満10.2%⇒減少
- 全出生数中の低出生体重児の割合 11.4%⇒減少

市民を支える取り組み

- 子どもの発達に応じた適切な生活習慣について、学べる場を提供する
- 子どもが適切な生活習慣を身につける重要性について、社会全体の意識が高まるよう普及啓発する
- 保育所(園)や学校等と連携し、子どもたちが健康的な生活習慣を身につけられるよう支援する
- 食生活改善推進員と協力し、子ども達や子育て世代へ「塩山式手ばかり」の普及啓発を行う

重点課題② 「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援

目標：親や子どもの多様性を尊重し、育てにくさを感じる親を支える

めざす姿

- 「育てにくさ」を感じる親が、子どもの多様な特性を理解し、安心して子育てをすることができる

現状値と10年後の目標

- ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合
3・4か月児 86.7%⇒増加
- 育てにくさを感じたときに対処できる親の割合
3・4か月児 100%⇒維持
1歳6か月児 66.7%・3歳児 76.9%⇒増加

市民を支える取り組み

- 母親の気持ちに寄り添える乳幼児健康診査の実施
- 育てにくさを感じた時に専門家に相談できる場の提供
- 育てにくさを感じる親子へ継続的な支援を行う
- 関係機関と連携し、育てにくさを感じる親と子の支援を行う
- 地域の人が、「育てにくさ」をもつ児について理解できるよう支援を行う



重点課題③ 妊娠期からの児童虐待予防への取り組み

目標：親子の愛着を育むことで、子どもの虐待を予防する

めざす姿

- 親が子どもをかわいいと感じることができ、子どもが安心してのびのび育つことができる

現状値と10年後の目標

- 子どもを育てることが楽しいと思える者の割合
1歳6か月児 100%・3歳児 97.9%・5歳児 95.3%⇒維持
- 子どもを虐待していると思う親の割合
3・4か月児 0%・1歳6か月児 0%⇒維持・3歳児 2.5%⇒0%
- 感情的に子を怒ったことがある親の割合
1歳6か月児 11.2%・3歳児 19.5%・5歳児 23.3%⇒減少

市民を支える取り組み

- 全ての妊娠婦、乳幼児を把握し、対象者を継続的に支援する
- 親子の愛着形成を育む母乳育児の推進
- 医療機関を含む母子保健・子育て支援関係者との連携強化

すこやか親子こうしゅう

母子保健計画とは？

母子保健は、すべての子どもが健やかに成長していく上での健康づくりの出発点であり、次世代を担う子ども達を健やかに育てるための基盤となります。「すこやか親子こうしゅう」は、母子の健康水準を向上させるための様々な取り組みを、みんなで推進するための計画です。本計画の期間は、平成27年度から10年間とし、平成36年度を目標年度とします。また、平成31年度には中間評価を行い、必要に応じて見直しを行います。

基本理念 『すべての親と子が健やかで心豊かに暮らせるまち こうしゅう』

すこやか親子こうしゅう



すべての親と子が健やかで心豊かに暮らせるまち こうしゅう

子育て支援・健康支援

【重点課題①】
胎児期からの健康な生活習慣の支援【重点課題②】
「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援【重点課題③】
妊娠期からの児童虐待予防への取り組み

【基盤課題A】妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援

【基盤課題B】子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

現在の母子保健を取り巻く状況を踏まえて、2つの基盤課題を設定しました。また、特に重点的に取り組む必要のあるものを3つの重点課題としています。

基本理念 『すべての親と子が健やかで心豊かに暮らせるまち こうしゅう』

【基盤課題A】妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援

目標：妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援体制を構築し、安心して子育てができるよう支援する

めざす姿

- 女性のライフステージの転換期である産前・産後の時期を安心して過ごすことができ、次の子も産みたいと思える
- 親が子どもを可愛いと感じることができ、周囲の温かいサポートを受けながら、安心して子育てができる

現状値と10年後の目標

- 妊娠・出産について満足している者の割合
100%⇒維持
- ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合(3・4か月児)
86.7%⇒増加
- うつ傾向の産婦の割合
46.5%⇒平成27年度調査後に設定



市民の取り組み

- 妊婦、産婦が、自分自身の心身の健康について考えることができ、必要な健康行動がとれる
- 子どもを可愛いと思うことができ、安心して子育てができる
- 子育てに悩む時に、自ら相談することができる
- 夫婦で協力して子育てができる
- 家族や身近な人が子育てに協力することができる

現状値と10年後の目標

- 妊娠中、健康管理に積極的に取り組んだ母親の割合
70.0%⇒増加
- 子育てについて気軽に相談できる人がいる親の割合(3・4か月児)
100%⇒維持
- 出産1か月時の母乳育児の割合
66.7%⇒増加
- 育児に主体的に関わっている父親の割合
3・4か月児 78.3%・1歳6か月児 56.0%・3歳児 67.5%⇒増加

市民を支える取り組み

- 妊娠届出時から出産、子育てに至るまで継続した支援を行う
- 関係機関と連携し、両親に必要な情報を提供する
- 産前・産後に母親が休養できる場所を提供する
- 子育てについて学び、相談できる場を提供する
- 乳幼児健康診査等を通じ、母親が自信をもって子育てできるよう支援する
- 子どもの時から、命の大切さを学ぶことができるよう支援する
- 母子保健、子育て支援の関係機関等が、相互に情報交換したり、課題を共有し解決に向けて検討する場を持つ
- 授乳しやすい環境づくり ●転入児の全数把握

現状値と10年後の目標

- マタニティクラスの初産婦の参加率 実施回数 16回／年・参加率 50%⇒増加
- 乳幼児健康診査未受診率 2.4%⇒減少
未受診児フォローラート 96.7%⇒100%
- 妊婦訪問率 93.7%⇒増加
- 新生児・産婦訪問率 91.7%⇒増加
- 産前・産後ママのほっとスペース利用者数 年間 396人(推定)⇒維持

【基盤課題B】子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

目標：妊娠婦や子どもの成長を見守り、親子を孤立させない地域づくり



めざす姿

- 地域の人が妊娠婦や子どもに声をかけ、相互にふれあいながら子育てを楽しむことができる
- 甲州市で子育てしたいと親が思える

現状値と10年後の目標

- 甲州市で子育てをしたいと思う親の割合
94.2%⇒増加
- 妊娠中、仕事を続けられることに対して職場から配慮をされたと思う就労妊婦の割合
100%⇒維持
- 次の子を産みたいと思う母親の割合
63.4%⇒増加

市民の取り組み

- 市民が妊娠婦へ配慮することができる
- 母親が地域の交流の場に参加できる
- 母親が就労しながら出産でき、仕事と子育ての両立ができる
- 子育て中の親や子に、地域の人が積極的に声かける

現状値と10年後の目標

- 子どもを連れて外出した時に声をかけてくれる地域の人がいる割合(3・4か月児)
93.3%⇒増加
- つどいの広場に参加する母親の割合
28.7%⇒増加

市民を支える取り組み

- 民生委員・主任児童委員等と連携を図り、地域での見守りを推進する
- 親同士の交流を目的とした育児支援の充実
- 親同士の交流の場の提供と、親と親をつなぐ支援の充実
- ママのあんしんネットワーク会議の開催
- 育児を支援するボランティア等の育成支援
- 子育てについての理解が深まるよう、普及啓発を行う
- マタニティマークの普及啓発

現状値と10年後の目標

- つどいの広場後の自主グループ化率
100%⇒維持



お母さんにとって日常の育児の相談相手は誰ですか

